



マナウス日本人学校 学校だより

マナウス

2023年(令和5年)8月28日 第5号 文責:校長 八幡 良一

学校教育目標

- ・自ら進んで学びとる子ども (知)
- ・礼儀正しく思いやりのある子ども(徳)
- ・心と体を鍛える子ども (体)

失敗を次に活かす移住者たちの力強さを知る “全校道徳”

8月21日から3日間行われた“授業参観期間”では、授業参観以外にも廊下に掲示された子どもたちの夏休みの作品を見



ていただきました。また23日の“全校道徳”では前サーレス自治会長である宮本倫克氏に来ていただき「移住生活と養鶏をはじめたきっかけ」と題して、65年前に中3生で移住された当時の生活を聞くことができました。危険を伴う山焼をし



て土地を肥やしていく工夫や、多くの失敗を経て適した作物を選んでいった経緯を知りました。現場を見ずに自給自足を推奨する母国に対し成功例を示す先人の努力に驚き、そのおかげで私たちが今ここで生活できることを感謝する時間になりました。



全校道徳の感想を紹介します。子ども(数名抜粋)は●、保護者(一部抜粋)は◆です。

●当時の大変さが伝わってきました。ぼくもガランチードと言われたいです。(全小)●こしょうがぜんめつしたのにあきらめずに、にわとりをたくさんそだてたのがすごいと思った。(全小)●これからも周りの人に感謝する気持ちを大切にしたいです。(文中)●興味深かったことは、危険な虫の対応や土に必要な栄養分です。知らないことを学ぶことができました。(全中)●とても大変な生活をしてがんばっていたのが心に残りました。(文小)◆その時々体験されたことを詳しくお話下さり、ハッキリ覚えていらっしやるのがすごいと思いました。それだけ大変な思いをされたからでしょうか。子どもたちにもブラジル・マナウスで初めて体験したことを忘れず記憶に残しておいてほしいと思います。◆肥料がないので養鶏をはじめるという考え方がすごいと思いました。何も無いところに一から物を作るというのは大変です。移住された方々はすごい人たちだと思いました。◆移住をスタートした頃の話が聞けて、とても興味深かったです。皆さん手探りの中、工夫された山焼の様子など図を書かれて、とてもわかりやすかったです。山焼が好きだったと言われた顔は15、6歳の少年のようでした。ピメンタの話、失敗に終わったと言われましたが、次の養鶏につながる大切なステップだったと感じました。是非またお聞きしたいです。感謝しています。◆ダニ、ムクイン、アリ、シロアリ、サソリ、ムカデ、竹子虫、ノミ、砂ノミ、アブ、ブヨ、牛バエなど、たくさんの危ない虫がいることがわかりました。私も病気になるように虫に刺されないように気をつけないと、と思いました。◆ベレンまでの前回のお話からすごく気になっていたのも、お話が聞けて大変嬉しかったです。日本人の活躍があったからこそ、今私たちがより良く暮らせている。子どもたちへのいいメッセージになりました。◆私たちが今このように生活できるのは宮本さんはじめ、多くの移住された方々のご努力のお陰と改めて感謝申し上げます。

※書かれた感想について、子どもたちの分は A3版両面にまとめ、保護者の分は用紙を綴じて、講師の方にお渡ししています。いつも喜んで受け取っていただいています。